

KANSAI * OSAKA

文化力

No. 143

2025/SPRING・春

特集

当協会がパビリオンデーに出展
～世界に誇る日本食魅力発見の旅～



🌸 日本万国博覧会記念基金事業

EXPO2025を楽しみ尽くそう!

表紙: 「サクヤオオカミプロジェクト」
(EXPO2025会場に展示された《オオカミベンチ》)

事業主体: (一社) 万博サクヤヒメ会議

アーティスト: 鴻池朋子

写真撮影: 木奥恵三

万博記念基金特別助成事業



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025



食博覧会・大阪2025

PAVILION PARTNER

特集 当協会がパビリオンデーに出展します!



～世界に誇る日本食魅力発見の旅～

いよいよ始まった2025年大阪・関西万博(4月13日～10月13日)。当協会と大阪外食産業協会(ORA)は、会期中の6月7日(土)、万博会場内で来場者参加型イベント「日本食 Wonder Trip ～世界に誇る日本食魅力発見の旅～」を開催します。ユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的に注目を集める「和食」。世界中からさまざまな人々を迎える万博を機会に、日本食の起源にも遡ってその魅力を世界に発信し、次世代へとつなぎます。



スマートフォン
でクイズに
参加

映像とトークで、 「食」のあれこれを 楽しく知ろう!



- ① 日本食の精神世界へ
- ② 日本食の魅力を紐解く
- ③ 世界へ誇る日本食
- ④ 世界へ羽ばたく日本食の未来



クイズに答えて、プレゼントを当てよう!

日本食の魅力をクイズ形式で楽しくお届けします

料理雑誌
『あまから手帖』
編集顧問

門上武司

フードコラムニスト



NHK
「プラタモリ」
出演

船越幹央

大阪大学
総合学術博物館
副館長



総合司会
元・毎日放送
アナウンサー

八木早希

フリーアナウンサー



2025年6月7日(土) 開催

第1回公演 14:00～ 第2回公演 17:00～

※両回とも内容は同じです。

会場 大阪・関西万博会場内 EXPO ホール「シャインハット」

参加無料 (万博の入場券は各自でご準備ください)

※ご来場は原則として電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。
(自家用車などの乗り入れはできません)

主催 一般社団法人大阪外食産業協会、食博覧会実行委員会、
公益財団法人関西・大阪21世紀協会



EXPO ホール「シャインハット」
(提供: 2025年日本国際博覧会協会)

ORA外食パビリオン

宴

～UTAGE～



一般社団法人大阪外食産業協会
(Osaka Restaurant Management Association)

会長 な かい かん じ 中井 貫二氏

大阪ならではの食の魅力と熱量を世界へ

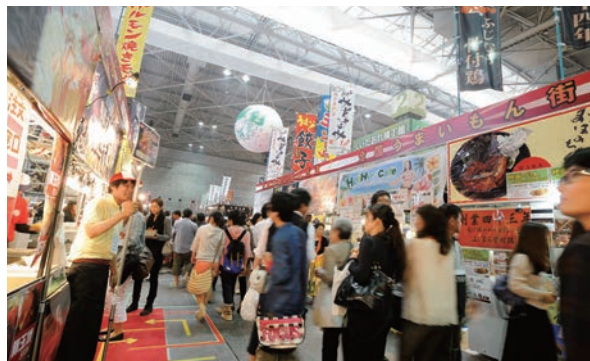
当協会と大阪外食産業協会(ORA)は、4年に1度、日本最大級の「食」のイベント「食博覧会・大阪」(食博覧会実行委員会)を共催し、国内外の食の魅力を広く発信しています。その第10回の年にあたる2025年、ORAは大阪・関西万博の会場にパビリオンを出展。「食博覧会・大阪2025」と位置づけ、地元大阪の食の魅力・楽しさをさらにアピールします。その概要や外食業界への思いについて、ORA会長の中井貫二氏に当協会理事長の崎元利樹が伺いました。

🔵 コロナ禍を乗り越えて

崎元 大阪外食産業協会様は2025年大阪・関西万博にパビリオンを出展されます。まずは、その経緯や思いについてお聞かせください。

中井 ORAは1985年から4年に1度、ゴールデンウィークに合わせて「食博覧会・大阪」※を開催しています。2021年がその第10回の開催年だったのですが、コロナ禍の真只中であって中止を余儀なくされました。そこで、次の開催年である2025年に大阪・関西万博の開催が決まっていたので、この機会に本物の万博で“食博”をやるうじゃないかと考えたのです。しかし、外食産業界はコロナ禍で大打撃を受けていましたから、本当にできるのか悩ましい状況でした。それでも地元・大阪の食文化を世界に発信する絶好のチャンスとあって、業界の皆さんの期待は大きく、なんとしてでもやりたいという強い思いがありました。一時は、ORAが出展を辞退するのでは

ないかという報道もありましたが、我々は、そんな報道をも発奮材料にして計画を進めてきました。



食博覧会・大阪2017(全国うまいもん街道エリア)

※食博覧会・大阪…国内外の料理、菓子、酒類、食に関するエンターテインメントなどを一堂に集めた日本最大級の「食」のイベント。第9回(2017/4/28～5/7)は62万人の来場者で賑わった。食博覧会実行委員会(大阪外食産業協会、関西・大阪21世紀協会)主催。

「宴」に込めた思い

崎元 パビリオンは『ORA外食パビリオン「宴～UTAGE～」』と名付けられています。どのようなコンセプトのパビリオンになるのでしょうか。

中井 「宴」は、第1回の食博から一貫して掲げているコンセプトです。1970年の大阪万博を成功に導いた堺屋太一さん(元経済企画庁長官、小説家/1935～2019年)の食博開催に寄せた言葉「人が楽しみを求めて交わるとき、よき食べ物とよき飲物、よき色とよき形、よき音とよき会話、そしてよき演出がある。それを併せ持つものをこの国では宴と呼んだ」に由来しています。そして、2021年の食博のテーマが「食べる！笑う！生きる！」。我々は、これこそが人間の持つ生命の輝きそのものであり、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に通じると考えました。また、大阪はかつて「天下の台所」と呼ばれ、北前船^{*}によって全国の食材や物品・情報の流通と地域の経済発展に寄与しました。これを受けて、ORAのパビリオンでは「新・天下の台所」とも銘打っています。

パビリオンでは、実際にお料理をご提供するブースをはじめ、「大阪産(もん)」と呼ばれるさまざまな食材やグルメ情報など、子どもから大人まで五感でお楽しみいただける仕掛けを凝らしてお待ちしています。

※北前船…大阪から瀬戸内海、日本海を通して北海道との間を行き来し、寄港地で商品を売買しながら食材や生活物資などを運んだ大型商船。江戸中期から明治中期にかけて活躍した。

美味しさを引き立てる“人間味”

崎元 天下の台所のブラッシュアップですね。ところで、天下の台所の食文化を支えてきたものは何だと思われますか。

中井 大阪の食文化といえばお好み焼きやたこ焼きに代表される「粉もん」というイメージで語られがちですが、それだけではありません。「天下の台所」の名の通り、日本の食のすべてが体験できますし、キタやミナミでは、演芸やお芝居を観たあとで外食を楽しむという娯楽スタイルもあり、食とエンターテインメントは昔から密接な関係にあります。

また、外食はお腹を満たすだけのものではありません。仲間と一緒に“飲み”にケーションをしたり、行きつけの気心の知れたお店で、お店の人とフレンドリーな会話を楽しむためであったりします。大阪で道を尋ねると目的地まで一緒にきてくれたり、会話のついでに“飴ちゃん”をくれたりすることがありますね。お店の従業員がお客さまをコミュニケーションでもてなすことは、そうした大阪の“お節介文化”にも通じているように思います。当社(千房株式会社)の例で恐縮ですが、我々は従業員の心のこもった声かけによるおもてなしを、「お好みケーション(お好み焼き+コミュニケーション)」といって、美味しさを引き立てる“人間味”を重視しています。

「新・天下の台所」をテーマに参画企業が結集

ORA外食パビリオン「宴～UTAGE～」

一般社団法人大阪外食産業協会

食べる！笑う！生きる！それは「輝くいのち」そのものだ！



天下の台所「大阪」は、食で人々を笑顔にしてきたまち。食に携わる人たちの熱量で、美味しさはもとより、おもてなしやユーモア精神にもあふれています。効率を求めがちな現代にあっては、自由でへんてこな「人」の賑わいこそ、未来に向けた大事な栄養です。そんな活気ある「宴」のムードを、目と舌と心で存分にお楽しみください。



海山の幸であふれんばかりの北前船が、真っ赤な「のれん」から飛び出しているORA外食パビリオン「宴～UTAGE～」(西ゲート側)。

フロア1 のれんをくぐれば「新・天下の台所」！

「天下の台所」として賑わった江戸時代の情緒と、日本食の魅力を一度に体感。春巻きの皮で包み揚げにした新感覚のお好み焼きや植物由来の食材だけを使ったソフトクリームなど、万博会場でしか味わえない各社こだわりの“万博オリジナル料理”をテイクアウトで販売するほか、日本の伝統工芸菓子の展示、イベントなど、ご来場者に驚きと美味しさを提供いたします。



ORAが開催してきたイベントのご来場者の中から、抽選で90名の写真を天井に掲載。自分の写真がどこにあるか、探してみてくださいね！

人が輝く業界に

崎元 中井会長は証券業界から転身されたとお聞きしていますが、外食産業界にもご関心はおありだったのですか。

中井 私は子どもの頃から、父に「お前がメシを食べるのは親のおかげやない。ウチの店(千房)で夜遅くまでお好み焼きを焼いて、店をきれいに掃除してくれる従業員のおかげや」と、常々聞かされてきました。だから10年前に後継者候補だった兄が亡くなったとき、その従業員の方々に恩返しをするのが当たり前だと考えて後を継ぎました。

外食産業は素晴らしい仕事です。お客様に「美味しかったよ」「また来るね」って喜ばれ、従業員が笑顔で「ありがとうございました」と応える。そんな感謝の言葉が毎日交わされています。そうした全ての人が幸せになれる仕事なのです。だからこの仕事に携わる人が輝けるようにしたいし、地位をもっと向上させたい。それこそ私の使命だと思っています。

未来の外食スタイル

崎元 そんな外食産業界にもさまざまな課題がありますね。

中井 我々の課題の一つに人手不足があります。その解消に向けて、現在、入国管理法(特定技能制度)が改正されて外国人の雇用が増えています。シニア層の活躍にも期待しています。

店舗運営の効率化も課題です。未来の飲食店といえば、ロボットやDX※によって人の手を介さずに料理が提供されるイメージを持つ方もおられるでしょう。すでにロボットで配膳をするお店もあります。それはそれでよいのですが、業態によって対応は異なります。フルサービスのお店では接客による付加価値を低下させてはいけませんから、ロボットやDX化はバックヤードでの煩雑な業務処理に限るといった工夫が必要でしょう。

※DX(デジタルトランスフォーメーション)…AI技術などを活用して製品やサービスなどを変革し、新たな価値を生み出す活動。

前回とは逆に日本から世界へ発信

崎元 半世紀を超えての今回の万博で何を一番期待されますか。

中井 日本で外食産業が勃興したのが、大阪万博が開催された1970年だとされています。アメリカのチェーンストアマネジメントを導入したファミリーレストランが誕生するなど、日本に新たな外食スタイルが吹き込まれました。時代を経て、今や日本食は世界的に知られ、海外の日本料理店はとても繁盛しています。今度の万博は、70年万博のときとは逆に、日本の外食スタイルを世界に発信することになるでしょう。万博が終わった後も、日本食の魅力と併せて、外食産業に携わる人たちの熱量を、世界に発信し続けていきたいと思っています。

崎元 6月7日には、EXPOホール(シャインハット)で御協会と関西・大阪21世紀協会の共催によるイベント『日本食 Wonder Trip～世界に誇る日本食魅力発見の旅～』を予定しています。ここでも人間味のある熱い思いを伝えたいですね。本日は貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。



聞き手 **崎元 利樹**

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 理事長

(2024年12月25日/千房株式会社 本社にて)

中井賢二氏

1976年大阪府生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、野村證券株式会社に14年間勤務したのち、2014年千房株式会社入社。2018年より同社代表取締役社長。大阪外食産業協会会長、道頓堀商店会副会長、一般社団法人関西経済同友会幹事、大阪拘置所篤志面接委員など公職多数。

一般社団法人 大阪外食産業協会

(Osaka Restaurant Management Association) / 1981年設立。大阪の外食産業の健全な発展と近代化・合理化ならびに多様化する消費者ニーズに応え、大阪の地盤強化と経済振興の一翼を担い、伝統ある文化の発展に寄与することを目的に活動。会員数532社(正会員193社、賛助会員338社、特別会員1社/2024年3月31日現在)。

写真提供：大阪外食産業協会



フロア2 未来の外食スタイルを体験！

未来のレストランのバックヤードに迷い込んだような空間で、食の作り手の技術や創意工夫を体感。来場者による寿司の調理体験イベントや食育、未来に向けたORAの取り組みなど、食の背景に触れることで、食への新たな興味や関心がふくらみます。



試飲・試食を交えたセミナーや食育イベントなど、「食」にまつわる体験型イベントが開催される『宴-UTAGE-ラボ』

※万博オリジナル料理など、出展内容は予告なく変更されることがあります。

(写真提供：大阪外食産業協会)



日本万国博覧会
記念基金



EXPO2025を楽

関西・大阪21世紀協会が万博支援に向け

国内外33事業(総額1億1千万円)の**特別助成**を決定

関西・大阪21世紀協会は、「2025年大阪・関西万博」の盛り上げと文化・芸術で日本を元気にするため、万博会場や各地で開催されるプロジェクトへの特別助成枠を設け、国内外から180事業の申請のうち、万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に基づく合計33事業・総額1億1千万円を決定しました。その中から、4団体の公演・活動をご紹介します。皆さまには奮ってご参加くださり、地域の文化と交流をお楽しみください。

※2025年度の万博記念基金助成事業(一般助成)は、国際交流や日本文化をテーマに公募した結果、国内外から136事業の申請があり、外部委員からなる万博記念基金事業審査会の審査を経て31件(助成金額:約9,000万円)を採択。総額2億円の助成を行います。

国境を越えて多世代が共演



オランダ・日本 共同インテグレイテッドダンス公演「UNUM」&「lungo」

特定非営利活動法人LAND FES



- ▶ 5月21日／EXPO ナショナルデーホール(2025年大阪・関西万博会場内)
- ▶ 5月24日～25日／神戸文化ホール(兵庫県神戸市中央区楠町4丁目2-2)
- ▶ 5月27日／ロームシアター京都(京都市左京区岡崎最勝寺町13)

UNUM(ウナム)は「ひとつ」、lungo(ユンゴ)は「つなぐ」を意味するラテン語。オランダで障がい者や高齢者と共にダンスを作る活動に取り組んできたイントロダンスの振付家エイドリアン・ルティンさんと、日本国内で同様の活動をしてきたLAND FESのアーティストックディレクター松岡大さんによる共同振付、さらに貞松・浜田バレエ団も加わったコラボレーション新作を上演します。オランダと日本のダンサーたちが国境を越え、多世代が共演する圧巻の舞台をお楽しみください。本公演はオランダ王国公式プログラムの1つです。



助成金額:500万円

広がる「おむつ」の可能性



O-MU-TSU WORLD EXPO 2025

一般社団法人日本福祉医療ファッション協会



- ▶ 6月24日／EXPO ホール「シャインハット」(2025年大阪・関西万博会場内)

大阪・関西万博のEXPOホールで世界最大規模のおむつコレクション(ファッションショー)である「O-MU-TSU WORLD EXPO 2025」を実施します。当イベントは、おむつをテーマにしたファッションショーとトークショーを主体に、人種、体形、年齢、信仰、身体状況などさまざまなバックグラウンドを持つ方が参加でき、楽しみながらおむつを自分事として捉えられるイベントです。EXPOホールでの360°のプロジェクションマッピングや音響、照明を使用した演出で、おむつの可能性を最大限に表現します。万博という大舞台を通じて、おむつメーカーや下着メーカー、伝統工業などと協力し、おむつを斬新かつ革新的なデザインで世界に発信します。



助成金額:1,350万円

高校生がビジネスアイデアを発表



高校生みんなの夢 AWARD in 大阪・関西万博

公益財団法人みんなの夢をかなえる会

▶ 8月11日 / EXPO ホール「シャインハット」(2025年大阪・関西万博会場内)

「高校生みんなの夢 AWARD in 大阪・関西万博」は、未来を担う高校生が社会問題の解決と自らの夢を重ね、社会問題を解決するビジネスアイデアを策定するコンテストです。高校生に「自己の在り方や生き方」と「社会との関わり」を考えるきっかけを提供し、自らが主人公として社会問題を解決する「夢」を持ってもらうことを目的としています。高校生は、登録不要・利用無料のオンライン学習コンテンツ『ソーシャルビジネス学習プログラム』で、グローバル／ローカルの社会問題について学び、それを解決するビジネスアイデアの策定方法について学びます。第6回となる今年度は、大阪・関西万博で開催されることから、カンボジア、バングラデシュなどアジアの高校生からのエントリーも募ります。なお、高校生のビジネスアイデアのエントリーは2024年12月15日からスタートしています。



助成金額: 640万円

宇宙の起源から生命の誕生まで



体験型ART 映像コンテンツ「LIFE®いのち ～うまれることを再体験～ with スーパーキッズ・オーケストラ」(生演奏)

一般社団法人Feel & Sense

▶ 9月27日 / EXPO ホール「シャインハット」(2025年大阪・関西万博会場内)

世界に贈る「いのちのオーケストラ」。世界中の親子が涙するART映像作品「LIFE®いのち～うまれることを再体験～」を、世界的指揮者の佐渡裕さんが最も愛情を注ぎ指導する国内最強「スーパーキッズ・オーケストラ」の生演奏と「LIFE®いのち」監督でありアーティストの橋本昌彦さんによる生ナレーション・生歌でコラボレーションする没入感動体験型コンサートを開催します。「LIFE®いのち」は、宇宙の起源から生命の誕生までが壮大なスケールで描かれており、子どもから大人までが宇宙といのちの深いつながりを感じ、感動的に体感できるプログラムです。映像の中で使用されている生命の写真は全て実写が使用されており、その神秘的な美しさに世界中の人々が涙しています。



助成金額: 1,050万円

日本万国博覧会記念基金事業

世 世界各国で助成が生かされています。
過去54年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

<第8回>

プネ岡山友好公園（インド）



プネ岡山友好公園は、インド・マハーラーシュトラ州のプネ市にある公園です。この公園はプネ市と岡山県が2006年に友好交流関係を結んだことを記念して作られたもので、岡山県の有名な岡山後楽園をモデルにした日本庭園です。

万博記念基金では、2005年度にプネ岡山友好公園の建設に助成を行いました。

助成年度	助成事業名	助成事業者	金 額
2005年度	OKAYAMA GARDEN IN PUNE	プネ市	1,000万円

プネ市はデカン高原の西端に位置し、マハーラーシュトラ州の州都であるムンバイ市に次ぐ州第2の都市です。蒸し暑いムンバイ市に比べて爽やかな気候に恵まれています。自動車産業やIT産業、製薬産業などが盛んな都市です。



万博記念基金助成の表示がある銘板

公園の広さは約4ha（岡山後楽園の3分の1）あり、プネ市で最も広い公園の1つとなっています。生け垣や川、池、築山、橋、東屋といった日本庭園の要素がすべて含まれており、この公園に入ると一瞬日本にいるような錯覚さえ覚えるほどです。



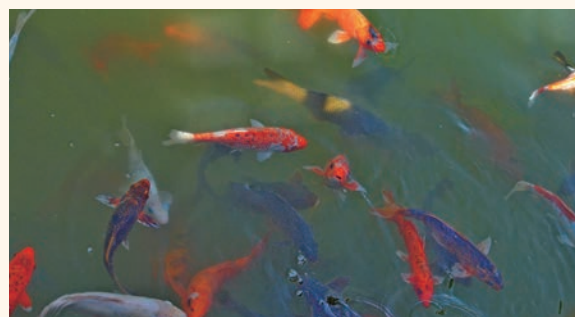
園内の唯心山から中池を眺める



日本とは異なる植生が広がる



小川には多くの橋が架かる



池では色鮮やかな鯉が泳ぐ

公園は町の中心からあまり離れておらず、一般公開もされていますので、普段は地元住民の憩いの公園として使用されています。現地の在ムンバイ日本国総領事館でも文化催事の会場として使用されました。

写真提供：在ムンバイ日本国総領事館、岡山県

2024年度日本万国博覧会記念基金助成事業（奨学金給付事業） 奨学生による中間報告会を開催

2025年2月9日（日）／大阪松竹座、難波御堂筋ホール

日本の伝統文化の鑑賞と、各々の研究内容を発表

「日本万国博覧会記念基金奨学金」を活用して、研究テーマを追及する外国人留学生（奨学生）たちが、これまでの学業生活で学んだこと、調査したこと、制作したことについて、中間報告会を開催しました。

当日は、中間報告会に先だって日本の伝統文化に触れてもらうため、大阪松竹座で開催の「立春歌舞伎特別公演『本朝廿四孝・恋飛脚大和往来』」を鑑賞しました。奨学生からは「初めて見る歌舞伎の台詞や演出を完全に理解することは難しかったですが、全体的な雰囲気を感じ取ることができ、観客の掛け声など日本の伝統芸能ならではの独特な演出に心を動かされ、日本の伝統文化に触れる良い機会になりました」などの感想がありました。

2024年度奨学生と研究テーマ・内容



河 璃
(ハ リン)さん
大阪大学大学院
芸術学(美学)専攻

研究テーマ

『メルロ・ポンティの肉の存在論からみた日常美学』



GUO BAOYI
(郭 宝怡)さん
東京藝術大学大学院
国際芸術創造研究科
アートプロデュース専攻
(リサーチ研究分野)

研究テーマ

『生成AI画像に対する創造産業労働者の反応、理由と対応：東アジアにおけるデジタルイラストレーターとの対話』



LAU, Serena Hey Tung
(リュウ キトン)さん
早稲田大学大学院
創造理工学研究科
建築学専攻

研究テーマ

『日本住宅地における住みよさの要因抽出に関する研究 一歩行換算距離と周辺生活利便施設の分析一』



白 松楠
(ハク ショウナン)さん
東京大学大学院
工学系研究科
建築学専攻

研究テーマ

『17世紀初頭以前の東アジアにおける重層建築の比較研究 一積層構法の変遷と文化的背景一』



JUNG SOYOUNG
(ジョン ソヨン)さん
筑波大学人文社会ビジネス科学術院人文社会科学
研究群人文学学位プログラム 言語学

研究テーマ

『外来語の意味拡張に関する研究 一日韓語における「インパクト」「アタック」の使用を中心に一』



Van de Velde Dino
(ヴァン デ ヴェルデ ディノ)さん
九州大学大学院
人文科学府
人文基礎専攻

研究テーマ

『戦前におけるナショナリズムの写真表現』



WANG RUI
(オウ エイ)さん
京都市立芸術大学大学院
美術研究科
保存修復専攻

研究テーマ

『西念寺所蔵「仏涅槃図」復元想定模写研究』



BINDE LIYA
(ビンデ リヤ)さん
大阪大学大学院
人文学研究科
外国学専攻

研究テーマ

『モンゴル語・内モンゴル方言のことわざに関する一考察 一特に日本語と比較して一』



YIN YIXI
(イン イッセン)さん
京都大学大学院
工学研究科
建築学専攻

研究テーマ

『文化財建造物における障壁画本紙の変褪色の温湿度性状・光環境依存性に基づく保存・公開に関する研究』



中間報告会の様子（難波御堂筋ホールにて）



奨学生の皆さん（大阪松竹座にて）

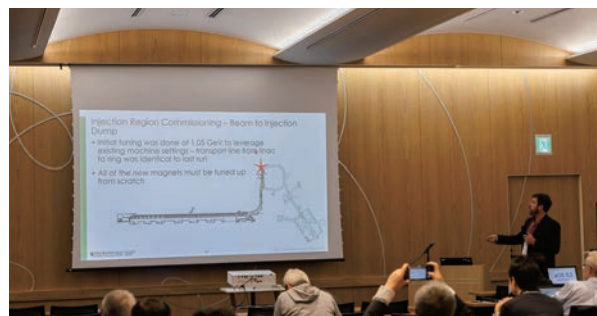
第4回J-PARCシンポジウム2024

事業者：大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構
実施期間：2024年10月14日～10月18日

助成金額：240万円
実施場所：茨城県水戸市民会館、J-PARCセンター

10月14日にJ-PARC(大強度陽子加速器施設)の活動への理解を深めていただくため、「J-PARCが創る未来、探る謎一次世代のエネルギーから宇宙まで」と題した市民向けの公開講座が開催されました。最先端の研究を分かりやすく講義することで、市民の理解が深まり、中高生が研究者を志すきっかけになったと考えています。10月15日から17日は国際シンポジウムとして、世界17か国から415名の参加を得て、稼働から15年を経たJ-PARCの総括及び将来について、内外の研究者で討論されました。

全体会議や同時セッション、ポスターセッションを通して、J-PARCにおける基礎から応用におよぶ広範な分野の多様な研究について深く議論することで、異分野融合を含む次世代量子ビーム研究のさらなる可能性が探られました。さらに、歓迎会や交流会を通じて研究者同士の交流を深めることもできました。最終日の10月18日はJ-PARCの施設見学会を開催し、実際にJ-PARCの研究施設を見ていただきました。



国内外の研究者による議論(大会議室にて)



研究者たちの交流会

グローバルユースと考える持続可能な湖沼管理 Sustainable Lake Management (SLM) Week

事業者：公益財団法人国際湖沼環境委員会 (ILEC)
実施期間：2024年9月25日～28日

助成金額：300万円
実施場所：琵琶湖淀川流域全域

本事業は、SDG6(すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する)の実現と世界各地での持続可能な湖沼管理に貢献することを目的に実施されました。会場とオンラインのハイブリッド形式及び日英同時通訳で開催され、20か国から会場39名、オンライン96名、計135名の参加がありました。琵琶湖淀川流域をフィールドに「グローバルユースワークショップ」を開催し、日本と海外のユースが環境保全などの事例を学び合いました。これによりグローバルユースの育成と国内外関係者とのネットワーク構築を行うことができ、「Sustainable Lake Management フォーラム」では、「世界湖沼の日」制定に向けた機運醸成の取り組みや、ユースなどによる湖沼の持続可能な管理を促進するためのオンラインプラットフォーム「Lakes for Life」の立ち上げを含むアクションプランが世界に向けて発信されました。このプラットフォームを通じて、ユース活動が継続的に発信され、隔年開催の世界湖沼会議の場で定期的に発表・評価される仕組みを構築します。



国内外の流域研究者を交えたディスカッション



船上でのワークショップ(琵琶湖にて)

アヌーナ「雪女」の幻想 ～神秘のコーラスと能舞～

事業者：地球音楽プロジェクト実行委員会
実施期間：2024年12月7日

助成金額：270万円
実施場所：すみだトリフォニーホール(東京都)

アイルランドを代表する世界的コーラスグループ「アヌーナ」と、能楽師 津村禮次郎師、日本の雅楽器・笙奏者 東野珠実、大鼓奏者 柿原光博による一夜限りのコラボレーション公演を開催しました。楽曲テーマは小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の「雪女」です。アヌーナの主宰者・芸術監督のマイケル・マクグリフが新たに作曲、構成した作品です。また、舞台美術として日本の画家・絵本作家 伊勢英子による「雪女」の絵を舞台全面に映写しました。「雪女」は「自然と命の神秘」を伝えている物語であるため、舞台芸術でも雪の絵の上映方法を工夫し、美しく幻想的な舞台を創りました。

西洋のコーラスと日本古来の笙と能舞の融合を図るとい、それぞれ全く異なる表現の、枠を越えた多面的な出会いを創造し、観客からは感動の声、絶賛の声をいただきました。

世界のさまざまな文化を日本に紹介し、さらに日本の伝統文化の美しさと融合することで、これまでにない組み合わせと演目を実現することができ、現代において価値ある新たな芸術として提示できる可能性が大いにあると実感しました。



アヌーナの皆さん(写真：石田昌隆)

ジャパン・フェスティバル・ウェリントン2024

事業者：ウェリントン・ジャパン・フェスティバル・トラスト
実施期間：2024年9月14日～22日

助成金額：240万円
実施場所：マイケル・ファウラー・センター(ニュージーランド・ウェリントン)

ジャパンフェスティバルは、あらゆる年齢層のウェリントン市民に、日本の伝統的・現代的な芸術・文化の魅力に触れる機会を提供し、日本の文化と歴史に関する知識と理解を深めることを目的としています。今回は、9日間にわたって日本の伝統美術や現代美術の展覧会、和太鼓のワークショップ、茶道、生け花、書道、折り紙などの伝統文化ワークショップなどフェスティバル・ウィークイベントを実施しました

また、今回はウェリントンと堺市の姉妹都市提携30周年を祝うため、日本大使とウェリントン市長がフェスティバルに積極的に参加され、姉妹都市関係の重要性など、ステージでスピーチしていただきました。

期間中の会場は活気に満ちあふれ、1万人以上のウェリントン市民が家族で日本文化を学び、楽しむことができました。このフェスティバルは日本大使館やウェリントン市議会、ウェリントン堺協会の協力のもと、ニュージーランドと日本の外交的・文化的結びつきに対する認識を高め、日本に関心のある人々と地元企業とのつながりを育みました。



伝統文化ワークショップ



ステージプログラム

若手アーティストが育つ魅力ある大阪に

大阪中之島美術館×関西・大阪21世紀協会 共同企画

Osaka Directory

Supported by RICHARD MILLE

おおさかディレクトリ

関西・大阪21世紀協会は、大阪中之島美術館と協力し、関西ゆかりの新進アーティストの作品を個展形式で紹介する「Osaka Directory Supported by RICHARD MILLE」を開催しています。3年目となる2024年度(第7～9期)は、国内外で幅広く活躍するアーティストが出展し、多くの来場者が、現代を象徴する独自の表現を楽しみました。

当協会はこの取り組みを通して、若いアーティストの活動を支援するとともに、大阪が国内外から「アーティストが育つ、活気と魅力のある都市」として認知され、さらなる賑わい創出に貢献することを目指しています。

谷中 佑輔 展

第8期 2024年12月21日～2025年1月19日

谷中佑輔／1988年大阪府生まれ。2014年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。同年「アートアワードトキョー丸の内2014」グランプリ受賞。2016年京都市芸術文化特別奨励者認定。同年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてドイツ・ベルリンに滞在、以降ベルリンを拠点に活動。

再生医療の知見をアートに昇華



2020年に弟が運動中の事故で身体に障がいを負ったことをきっかけに、病気やケガ、障がいに対する身体の脆弱性や、進化する医療技術への思いを彫刻やダンスパフォーマンスで表現している谷中佑輔さん。本展覧会では、そうした中で関心を持った再生医療^{※1}をコンセプトとする作品が出展されました。

「人体の形成を受精卵に遡って考える発生学やiPS細胞のアプローチに則って人体彫刻を作ると、どんなアートになるか興味が湧いた」

谷中さんは、受精卵が三層の胚葉（外胚葉、中胚葉、内胚葉）に分化して、それぞれが皮膚や筋肉、骨格、内臓などに育っていくことに着目。ブロンズを外胚葉（皮膚）、ステンレスを中胚葉（骨格）、ガラスを内胚葉（内臓）に見立てた作品群は、細胞が分化して組織や器官を形成していく発生学の視点や、美術館に隣接するNakanoshima Cross（中之島クロス）^{※2}などでのリサーチから着想したものです。また、それらを包み込むようなキイチゴ染めの“カーテン”は、胚葉を守る“粘膜”に見立てた作品で、パートナーのレア・

d.アレクサンドさんとの共作です。細胞の培養をイメージさせるとともに、医療機器を思わせるフレームと相まって、会場全体に医療現場の緊張感を漂わせました。

展覧会初日のアーティストトークは、主なりサーチ先の一つ、公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団 研究開発センター・センター長の塚原正義氏を招いて行われました。自身もアートファンという同氏は、「人間にとって、知的好奇心を原動力とするサイエンスと感性が揺さぶられるアートの世界観はどちらも重要。生命の発生を模した谷中さんの作品の面白さや不思議さに触れて、再生医療やiPS細胞の実用化に関心を向けるきっかけになればうれしい」とコメント。谷中さんは、「美術館の協力を得て実際にリサーチできたことは非常にありがたかった」と振り返り、再生医療への理解を深めたことで、引き続き身体の弱さや再生の可能性を作品制作を通して追求・表現していきたいと語りました。

※1) 再生医療…病気やケガなどで失われた身体の組織を、体細胞やiPS細胞などを移植することで、人間が持つ組織の再生力を助けにすることで復元させる医療。

※2) Nakanoshima Cross(大阪市北区中之島) …医療機関や企業、支援機関などが集積する最先端の「未来医療技術」の産業化拠点。2024年6月オープン。



谷中佑輔《CRISPR-PP3》2024年
ブロンズ・ガラス・ステンレス・アルミ合金・ワイヤー・キャスター、43×120×250cm



展覧会場全景

KOURYOU 展

第9期 2025年1月25日～2月24日

KOURYOU / 1983年福岡県生まれ。2008年東京藝術大学大学院美術研究科修了。ウェブ制作会社に勤める一方、サイトゲームの開設やその設計図のような絵画、模型作品を発表。2019年「瀬戸内国際芸術祭2019」女木島（香川県）での展示を契機にアートプロジェクト「EBUNE」を主宰。2022年より東京と大阪を拠点に活動。

「EBUNE」を率いて各地に漂着



かつて瀬戸内海には、家船^{えぶね}と呼ばれる木造船に家族で住み、漁業を営みながら移動生活を行う人たちがいたといわれています。KOURYOUさんは、瀬戸内国際芸術祭2019^{※1}への参加をきっかけにその存在を知り、漂海民の文化やそれが及ぼす影響をリサーチ。以後、家船よろしくアーティストが乗組員となって集団で各地に“漂着”し、作品を制作・発表するアートプロジェクト「EBUNE」を主宰しています。

「小説家やミュージシャンなど、さまざまなアーティストと共同でウェブサイトゲームを制作してきた手法を、実際のアート制作でもやってみようと思った」とKOURYOUさん。コンセプトは、家船にまつわる伝承や行く先々の地域に伝わる歴史や民話などを基に虚実混交のアイデアを作品として可視化し、その全てをもって「EBUNE」という1つのアートを作り上げること。さらにウェブサイト (<https://ebune.net>) を開設し、その“航海”の物語を発信しています。

2019年4月、EBUNEは瀬戸内国際芸術祭の会場である女木島（香川県）を“出航”し、以後、福岡・箱崎（2020年8月）、佐賀・有田（2021年5月）、兵庫・淡路島（同年10月）を経て2022年8月に大阪・西成に“漂着”しました。



KOURYOU《大阪港ヤソシマ地図》2025年（撮影：KOURYOU）



KOURYOU《大阪港ヤソシマ会議》2025年

本展覧会では、それらの活動がアーカイブ形式で紹介され、平面、立体、映像作品など、自身を含む大勢のアーティストによる多種多彩な作品が展示されました。その中で最も大きな作品が、今回の展示のために制作された《大阪港ヤソシマ会議》。映画『帝都物語』^{※2}での巨大な東京のジオラマを前にした対策会議シーンを、大阪を舞台にして再現したインスタレーション作品です。この映画にも登場する東洋初のロボットと呼ばれる「學天則」が議長を務め、大阪の風景のジオラマを囲み、大阪の文化や歴史を議論する様子が展示されました。また最終日には、独自の視点で大阪の今と昔を物語る絵画《大阪港ヤソシマ地図》が発表されました。

「大阪では歴史や伝説が息づき、今まさに動いている感じがする。だから、そこで活動する人たちの思いを作品に込めようと思った」そう話すKOURYOUさんにとって、本展覧会は制作活動のゴールではなく通過点。EBUNEは、これからも新たな漂着地で独自の物語を紡いでいくことでしょう。

※1) 瀬戸内国際芸術祭…3年に1度、瀬戸内海の島々や港周辺で開催される現代アートの祭典。2019年は4月～11月に107日間開催され、約118万人が訪れた。

※2) 『帝都物語』（監督：実相寺昭雄）…荒俣宏のSF小説を基に1988年に映画化。平将門の怨霊により帝都（東京）破壊を目論む魔神とそれを阻止すべく立ち向かう人々との攻防を描く。

2025年度開催予定

Osaka Directory Supported by RICHARD MILLE

“今”という時代を読み解くアート体験

- | | | |
|------|--------|-------------------------------|
| 第10期 | 金 光男 | ／2025年11月15日（土）～12月14日（日） |
| 第11期 | 天牛 美矢子 | ／2025年12月20日（土）～2026年1月18日（日） |
| 第12期 | 和田 真由子 | ／2026年1月24日（土）～2月23日（月・祝） |

【会場】大阪中之島美術館 2階 多目的スペース（入場無料） 【主催】大阪中之島美術館、関西・大阪21世紀協会

【supported by】RICHARD MILLE

写真提供：大阪中之島美術館

関西・大阪21世紀協会が2021年度より実施している「学校アートプログラム」は、小学校にアーティストを派遣して友だちとともに創造する体験を通じて、子どもたちの人間力や思考力などを育むことを目的としています。2023年度までに約1700名の児童がこのプログラムを体験し、4年目を迎える2024年度は、泉佐野市、泉南市、岬町に加え、新たに岸和田市・熊取町と連携協力に関する協定を締結し、合計6校で実施しました。

また、学校の枠を超えた取り組みとして、美術館との連携によるプログラムを構築し、大阪市で試験的に実施しました。今後もさまざまな自治体・団体などのご理解とご協力を得ながら創造的な活動を広げていきます。

岸和田市立山滝小学校 3、4年生

南アフリカの音楽体験

● 講師：ンコシ・アフリカ

自由に太鼓を叩いたり、アフリカンダンスを踊ったりする体験をしました。基本のリズムを全員で、ソロパートを個人で叩く練習をする中、太鼓を叩くだけでなく踊り出す子どもも現れ、自由な時間を楽しみました。初日は隣接の幼稚園児や全校児童に向けてミニライブを行い、最終日は保護者の方々にこれまでの成果を披露し、多くの人々が体験しました。



泉佐野市立第三小学校 4年生

インドネシアの音楽(ケチャ)体験

● 講師：ハナジョス

「ちゃ、ちゅ、ちょ」が含まれる言葉から、ケチャに取り入れたい言葉を3つ選び、オリジナルのケチャを作りました。言葉ごとにグループを分けて実践し、本場のケチャのように、手を挙げる、手を前に出す、倒れるなどの動きをつけました。最終日には、自分たちで調べたインドネシアの国や文化の発表と練習したケチャを地域の方々の前で披露しました。



熊取町立南小学校 6年生

五感で描く小さな世界

● 講師：山本理恵子

水彩絵の具の技法「にじみ」「かすれ」「スパッタリング」など9つの技法を、それぞれ小さな画用紙に描き、思い浮かぶオノマトペを当てはめた技法標本を作りました。また、用意されたモチーフから1つ選び、習得した技法を使ってモチーフの一部を拡大して描きました。描いたものを色画用紙に貼り、周りに感じたオノマトペを添えて作品に仕上げました。



熊取町立西小学校 5年生

インドネシアの音楽と影絵芝居

● 講師：ハナジョス

インドネシアの伝統的な音楽ガムランと、影絵芝居ワヤンのチームに分かれて、国語の授業で取り上げられた『竹取物語』を題材に、3クラスがそれぞれの舞台制作を行いました。台本を基にセリフや演出を考え、オリジナルのアイデアを出し合いながら、演技や演奏を行いました。最終日は3クラス合同で発表し、それぞれの工夫や違いなどを意見交換しあい、楽しみました。



泉南市立一丘小学校 2、3年生

教室に潜む形でつくるスタンドガラス模様

● 講師：野原万里絵

学校の中にあるさまざまな形(天井のシミ、机、筆箱など)を探し、タブレットで撮影しました。そこから浮かび上がる輪郭を基にして、スタンドガラスの模様を作りました。さまざまな工程を経て、最後は黒の画用紙に形を置いてスタンドガラス模様を完成させました。模様を作るための工程では、筆以外に手を使うなど、自由に色を塗りました。



岬町立多奈川小学校 5年生

廃材を使ったキーホルダー作り

● 講師：石田真也

作品の素材となる廃材を全員で学校の近くの海辺で集め、洗い、色ごとに分類しました。アーティストが用意した木片に廃材を付け、キーホルダーにし、地域のイベント「福祉&多奈川フェスタ」で販売しました。自分たちの思いを記した商品タグに加え、展示パネルも作成しました。フェスタでは自分たちの作品を熱心に説明し、地域の方々とふれあいました。



ミロの絵から聞こえる音

● 実施小学校：大阪市立育和小学校 6年生 ● 講師：橋爪皓佐

国立国際美術館と連携し、アーティストが関わりながら「鑑賞(インプット)し、考え、表現(アウトプット)する」体験を通じて、鑑賞を深め、自分なりの表現を発見することを目的としました。1日目は美術館で鑑賞をし、2日目は鑑賞の体験を基に、小学校で表現に繋がるワークショップを実施しました。



～美術館連携プログラム～

広がる学校アートプログラム

当協会は、学校アートプログラムの基本的な枠組みを活用して他の自治体・団体にプログラムを提供するなど、取り組みを拡大しています。今年度は昨年度に引き続き、泉南市とフィリピン共和国ダバオ市との姉妹都市協定の締結を契機に展開している国際交流プログラム文化交流事業、阪南市の海洋教育にプログラムを提供しました。また、賛助会員である和泉チエン株式会社様の従業員およびそのご家族向けのプログラムも実施しました。

▶ 国際交流事業への協力 (泉南市)

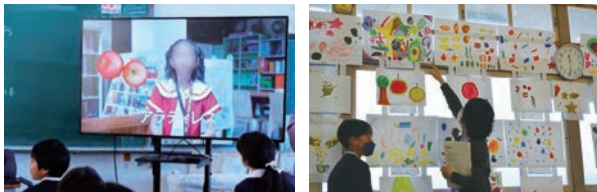
- 実施小学校：泉南市立一丘小学校 4、6年生 ※交流先／フィリピン日系人会国際学校 4、6年生

フィリピンの小学生からワークショップの素材となる動画を送ってもらい、それを基にワークショップを実施しました。実施の様子やフィリピンへの質問などを動画で撮影し、ビデオレターのように動画を交換し合い交流しました。

フィリピンのフルーツを描こう! (4年生)

- 講師：尾柳佳枝

フィリピンのフルーツの名前や色・形などの情報を基に、想像して絵を描きました。動画で正解を知った後、「バリンピンの断面を2つ」や「マランの白い実を5つ」など「指示カード」を作成、楽しみながら引いていき、大きさ・色・配置を各自で工夫のうえ描いていきました。絵が苦手な児童も楽しみながら作品を完成させました。



フィリピンのオノマトペを体で表現しよう! (6年生)

- 講師：阪本麻紀

フィリピンで使用するタガログ語のオノマトペ「Agh」「Kulog-kulog」などの音だけを頼りに、どのようなときに使用されるオノマトペかを想像して体で表現しました。クラスをチームに分け、それぞれのオノマトペの意味を話し合っ て表現方法を工夫しました。最後にフィリピンから送ってもらったオノマトペの動画を見て正解を知りました。



泉南市成長戦略室長 伊藤公喜さん

子どもたちが作品を通して、自分たちの感性を自由に形にしており、また、同時に自分やお友達の個性を知る機会を得ていました。本当に満面の笑顔で楽しそうに、異文化理解や多文化共生の感覚が育まれていましたね。泉南市では、令和7年度から市内のすべての小中学校でフィリピン共和国ダバオ市とのオンライン国際交流を行う予定です。貴協会の学校アートプログラムを実施できたことはとても有意義だと思っています。



フィリピン日系人会国際学校 学長 イネス・山之内・P・マリヤリさん

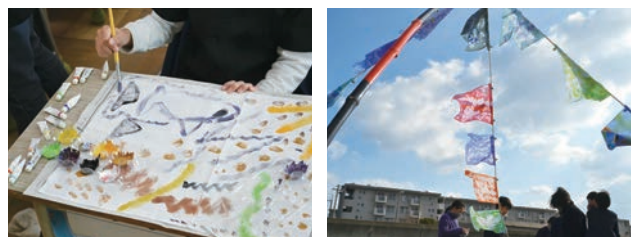
この度は貴重な交流の機会をいただき、心より感謝申し上げます。一丘小学校の皆様と本校の学生は、それぞれ普段は方言や公用語以外の言語を使用しており、言葉を理解する大切さと、言語を超えた交流の楽しさを実感いたしました。また、日本語科・英語科・国語(フィリピン語)科が連携した授業は、本校としても意義深い機会となりました。両学生たちが積極的に参加する様子も印象的で、またの機会を学生共々心待ちにしております。



▶ 海洋教育への協力 (阪南市)

- 実施小学校：阪南市立上荘小学校 4年生
阪南市立尾崎小学校 5年生
- 講師：尾柳佳枝(上荘小学校) 高田マル(尾崎小学校)

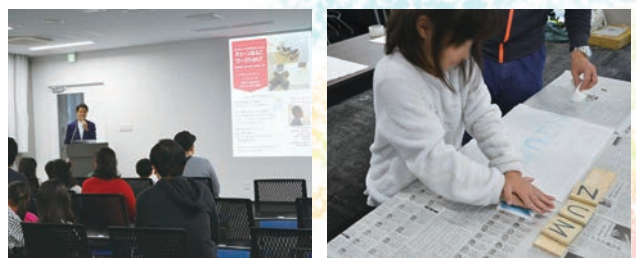
海洋教育プログラムの一環として、アーティストの技術や感性に触れながら児童たちが自由に表現することで、自分たちの身近にある「海」について興味を持ち、主体的に関わろうとするきっかけを作りました。



▶ 従業員家族向けイベント開催 (和泉チエン株式会社)

- 講師：ウッキー富士原

企業の活動や職場の雰囲気をご家族に知っていただくことを目的として、前半では会社の概要説明と従業員が普段働いている様子を動画で視聴し、職場見学を行いました。後半は、アーティストが制作した自社製品のパーツを使ったワークショップを実施しました。参加者はハンコを使ってTシャツやトートバッグに自由に模様を作り、楽しみました。家族が普段見られない職場での姿を知ること、企業の活動に触れていただき、参加者から好評を得ました。



アートと社会貢献を連動させた作品貸出事業

art bridge[®]

もっと身近にインクルーシブアート



多様性を尊重し、支え合う社会を目指すプロジェクトー国内外で活躍の作家が新たに参加ー

当協会が2023年12月から取り組むアート作品の貸出事業「art bridgeーもっと身近にインクルーシブアートー」。この度、国内外で活躍する新たな作家10名の新作18点が加わり、総勢21名による40点以上の作品がラインナップされました。貸し出しの際の利用料の一部(25%)を作者に還元し、障がいのある方などの自立支援にもつなげていきます。

art bridge(アートブリッジ)は、現代美術として近年ますます評価が高まっている、障がいのある方々などの作品を広く社会に届けようという取り組みです。新たに加わった作家のなかには、アール・ブリュット[※]作品のコレクションで世界的に有名なabcd財団(art brut connaissance & diffusion)に作品が収蔵されている西岡弘治さんや、アウトサイダー・アート・フェア・パリ2019で「Art Absolutement Prize」を受賞した中川ももこさん

など、国際的に高い評価を得ている作家もいます。

当協会は、多くの人々にこうした作家たちの多様な感性に触れ、理解を深めてもらうことで、多様性を尊重し支え合う社会の実現を目指しています。

※アールブリュット(Art Brut)…フランス語で「生の芸術」を意味し、正規の美術教育を受けていない人や、障がいを持つ人などによる、従来の美術の枠にとらわれない自由な表現による芸術を指す。



作家紹介

にしおか こうじ
西岡 弘治さん

音楽があふれ出てくるような作品

まるで音楽が奏でられているような生き生きとした五線譜を描き出す西岡弘治さんは、2015年にブラハ(チェコ共和国)で開催されたabcd collection「アール・ブリュット展」の図録の表紙を飾るなど、世界的にも注目されています。日本国内でも、大阪府「現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」の優秀賞など、数多くの賞を受賞しています。

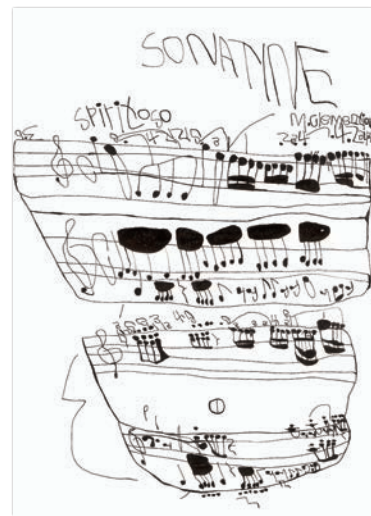
西岡さんは、知的障がい者の生活介護施設・アトリエコーナス(大阪市阿倍野区)がアート活動を始めた2005年から作品制作を続けています。最初はテレビの番組表や相撲の番付表を描いていましたが、幼少期にピアノを習っていた西岡さんは、施設に寄贈されたピアノと楽譜に触れたことをきっかけに、当時のことを思い出したように楽譜を描きはじめました。

音楽が好きで、休日にカラオケに行くことを楽しみにしている西岡さん。平日午前中はほぼ毎日施設で、柔らかな日差しが射す中庭の見える席に座り、クラシックやアニメソングの楽譜を作品の横に置き、一つ一つ確認しながら制作しています。お気に入りの楽譜集は毎日使う

のでボロボロになっていますが、補修して使い続けています。ゲルインクボールペンから生み出されるインク滲みのような線の強弱は、線を一度引いた後に意図的に書き足す“こだわり”により生み出されています。ほぼ1日1枚のペースで作品を仕上げており、これまでの作品は1千点を超えています。

揺らいだように流れる構図や、題名と五線譜の配置は、西岡さん独自のスタイル。この流れる作風は、西岡さんの右目の見え方によるものようですが、この揺らぎが作品に音楽があふれ出てくるような躍動感を与えています。

今回貸出作品に加わった西岡さんの作品2点は、18世紀後半から19世紀前半に活躍した作曲家ムツィオ・クレメンティ(イタリア)とフリードリヒ・クーラウ(ドイツ～デンマーク)のソナチネ(短いソナタ)の楽譜をモチーフにしたものです。西岡さんの手によって、この二人の作曲家の楽譜がどのようなアート作品へとアレンジされたのか、ぜひご自身の目で確かめてください。



《楽譜 SONATINE》 制作年不明

西岡弘治：1970年大阪府出身。大阪府「現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」優秀賞(2010年)など受賞多数。フランス abcd コレクションに作品が収蔵(2012年)。abcd collection「アール・ブリュット展」(2015年ブラハ)で作品が図録の表紙を飾る。NHK「no art, no life」出演(2021年)。

新たに加わった貸出作品（一例）

関西を拠点に活動し、すでに国内外の現代美術の世界で高い評価を得ている10名のアーティストがart bridgeに新たに参加しました。今後も引き続き、関西エリアで活動するアーティストを順次追加していく予定です。



おおし ひろし
大路 裕也 《男の人》2021年
緻密に塗り分けられた不定形なモチーフから、物事の輪郭の曖昧さに気づかせる作品。



おがわ しょうよう
小川 翔陽 《やね》2019年
観る方の心象風景に迫りながら、どこか懐かしさを感じさせる包容力のある作品。



かわの りょうじ
河野 竜司 《はなび》2013年
水溶性の顔料マーカーの特性が活かされた透明感と重層感を感じる作品。



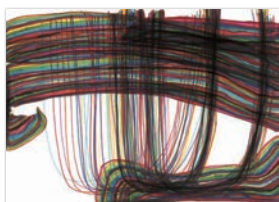
かわはら なおき
川原 直樹 《なおき》2023年
自身の名前(なおき)を繰り返し描き重ねることで現れた、色彩の美しさを感じる作品。



か っ
KATSU 《教会》2019年
主に単色で描かれながら、線の角度や密度、強弱により、奥行感や複雑な表情を見せる作品。



しらい たくろう
白井 拓郎 《リスカムとゴルナー氷河》2022年
風景写真をグリッド状に分解することで生み出された、色構成が特徴的な作品。



なかかわ ももこ
中川 ももこ 《ももこ》2017年
自身の名前「ももこ」が、それとは分からない程に抽象化されたストライプのような作品。



みず た こうすけ
水田 航介 《車両基地》2013年
好きなモチーフを描いた油性クレヨンの上で、水性絵具が弾ける動きを活かした作品。



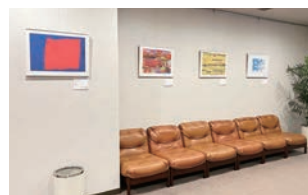
も も
MOMO 《無題》制作年不明
身近なモチーフをパステルできめ細かに描いた、優しい雰囲気伝わる作品。
(敬称略)

ご利用いただいている皆様からの声

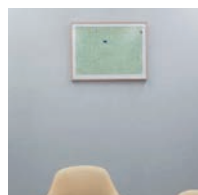
ご利用いただいている皆様からは、「実物はさらに存在感があり、とても気に入っています」「1点の絵画で、ワンランク洗練されたオフィス空間に変わり驚きました」「雰囲気が明るくなり、来社されるお客様との会話がはずむきっかけになります」などのお声をいただいています。

これまで、コンサートホール（ザ・シンフォニーホール様）、オフィス（阪急電鉄様、オーウェル様など）、ホテル（リーガブレイス肥後橋様）、特別養護老人ホーム（隆生福祉会ゆめパラティース様）、スタジアム（セレッソ大阪様）など、さまざまな施設で作品を設置していただいています。

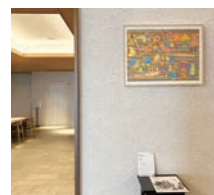
作品貸出のお申し込みは、下記のリンク、もしくはQRコードからオンラインで行えます。法人、団体等の皆様のご利用を、心よりお待ちしております。



株式会社ザ・シンフォニーホール様
(2Fサイドロビー)



阪急電鉄株式会社様
(オフィス 応接室)



リーガブレイス肥後橋様
(ホテルエントランス)

ご利用申し込み

公式ウェブサイト「初回会員登録」からお申し込みください。▶ <https://art-bridge.jp>

お問合せ先：art bridge事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町5丁目6-7 中川ビル3B(オフィス・エヌ内)

Email: info@art-bridge.jp TEL: 06-6777-8305



連携先の大阪府からののお知らせ ➡ 2025大阪・関西万博出展決定！

7月26日～27日 万博会場内のギャラリーWestにて、
「Art to Live」プロジェクト※の展覧会などを行います！ぜひご覧ください！

※大阪府「2025 大阪・関西万博に向けた障がいのあるアーティストによる現代アート発信事業」



令和6年度 大阪文化祭賞 贈呈式

主催 大阪府 大阪市 公益財団法人 関西・大阪21世紀協会



受賞者（前列）と各部門の審査委員長ほか（後列）

2024(令和6)年度

第61回大阪文化祭賞を贈呈しました

(2025年3月17日／NCB会館)

関西・大阪21世紀協会は、大阪府・大阪市とともに、芸術文化活動の奨励と普及、大阪の文化振興の機運醸成を目的に、「大阪文化祭賞」を贈呈しています。1963年に創設され、今回で第61回目を迎えるこの賞は、大阪府内で1年間に上演された公演の中から、とくに優れた成果をあげた公演に対して贈られます。関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストらが審査員を務め、第1部門「伝統芸能・邦舞・邦楽」、第2部門「現代演劇・大衆芸能」、第3部門「洋舞・洋楽」の各分野から、独創性、企画、内容、技法などの総合的に優れた公演が推薦・選考されました。

竹本千歳太夫さんら計9公演に贈呈

今年度も、多数の公演が推薦され、審査員による厳正な審査のもと、各部門の受賞者が決定しました。今年度の大阪文化祭賞は、竹本千歳太夫さん、旭堂南海さん、地主薫バレエ団に、また将来の期待を込めた大阪文化祭奨励賞には井上安寿子さんら個人や団体に贈られました。

竹本千歳太夫さんは、「由良助」の性根を見事に表現するとともに、重鎮の太夫としてこの段全体をまとめ上げ、観客を魅了する素晴らしい舞台成果を挙げたとの贈賞理由が読み上げられた後、「ご指導いただいた先輩方、この段で一緒に出ていただいた太夫、三味線弾き、人形遣いの皆様方のおかげでいただいた賞と思っております。これからも文楽のために色々と尽くしていきたい」と述べました。

旭堂南海さんは、還暦記念の独演会を開催し圧巻の話芸を見せ、また後世に残すため10年の歳月をかけた『難波戦記』などの音源収録は東西随一の偉業と称えられ、「講談という、本来なら日の当たるところに出てきてはならないような人たちのやっている芸に光を当ててもらい、本当に恐縮至極でございます」と、会場の笑いを誘いながら感謝の意を表しました。

世界に誇るバレエダンサーを数多く育ててきた地主薫バレエ団代表の地主薫さんは、自身の舞踊生活60年の節目として「運命」をテーマに古典と現代作品に取り組み、その成果が評価されました。「受賞で皆の努力が報われたと、とても感謝しています。地主薫バレエ団は、古きを



旭堂南海さん(受賞記念公演にて)

尊重し、また新しいことにも臆せず挑戦し、これから大阪のバレエ発展のために団員の力を合わせて進んでいきたい」と述べ、会場からは大きな拍手が送られました。

贈呈式後の受賞記念公演は、旭堂南海さんによる『寛政力士伝』より『小野川と雷電』の一席。迫力ある卓越した話芸に魅了され、会場は大きな笑いに包まれました。「続きはまた・・・」と深い余韻を残す最後の声に、出席者の間からは名残を惜しむため息も漏れましたが、受賞者のたゆまぬ努力と情熱に惜しみない大きな拍手が贈られました。

関西・大阪21世紀協会は、芸術・文化分野における人材育成やアーティスト支援の一環として、大阪文化祭賞の事業運営を事務局として行うとともに、受賞者の一層の励みとなるよう副賞賞金として大阪文化祭賞に20万円、奨励賞に5万円をそれぞれ贈呈しています。

2024(令和6)年度・各部門の受賞者

「」内は受賞公演名／敬称略

第1部門

伝統芸能・邦舞・邦楽

大阪文化祭賞 ▶ 竹本 千歳太夫 「11月文楽公演 仮名手本忠臣蔵『祇園一力茶屋の段』」

大阪文化祭奨励賞 ▶ 井上 安寿子 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会『鉄輪』」 片岡 千次郎 「第九回あべの歌舞伎 晴の会『伊賀越道中双六』」

第2部門

現代演劇・大衆芸能

大阪文化祭賞 ▶ 旭堂 南海 「旭堂南海還暦独演会」

大阪文化祭奨励賞 ▶ A級MissingLink 「富士山アンダーグラウンド」 ばぶれるりぐる 「川にはとうぜんはしがある」

第3部門

洋舞・洋楽

大阪文化祭賞 ▶ 地主薫バレエ団 「地主薫バレエ団ダブル・ビル」

大阪文化祭奨励賞 ▶ 井上 玲 「井上玲リコーダーリサイタル」 「さすらうこえ_さすらうからだ」メンバーズ 「さすらうこえ_さすらうからだ」

大阪文化祭賞 受賞者コメント



(提供：国立文楽劇場)

竹本 千歳太夫さん (人形浄瑠璃文楽座 太夫)

大変光栄に存じます。四代竹本越路太夫師匠、今日までご指導いただきました先輩、師匠方へ心より感謝申し上げます。『一力茶屋の段』でご一緒させていただきました太夫、三味線弾き、人形遣いの方々に感謝の気持ちでいっぱいでございます。これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



旭堂 南海さん (講師)

講談に光を当ててくださり嬉しいです。還暦を迎え『解体新書誕生』という新作を披露しました。杉田玄白と前野良沢の葛藤を、自分自身のテーマとして筋を考えました。新作を作る機会を与えてくださった皆様にも感謝申し上げます。



地主薫バレエ団 (代表：地主 薫さん)

この度は由緒ある大阪文化祭賞拝受の栄誉を賜り、光栄で身が引き締まる思いです。これもひとえに多くの皆様方のご尽力があつてこそと深く感謝申し上げます。これからも甘んじることなく、微力ながら大阪のバレエ発展に貢献できるように励んで参りたいと存じます。

大阪文化祭奨励賞 受賞者コメント



(提供：国立文楽劇場)

井上 安寿子さん (舞踊家)

この度は、大阪文化祭奨励賞という輝かしい賞を頂戴し誠に光栄に存じます。どんくさい私ですが、気合を入れ直して、京舞のために尽力してまいります。ありがとうございます。



(撮影：脇田友(スピカ))

A級MissingLink (劇作家・演出家：土橋 淳志さん)

この度は、このような栄誉ある賞を受賞することになり、今まで劇団の活動を応援して下さった多くの皆様に感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。



(提供：あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール、撮影：松浦隆)

井上 玲さん (リコーダー奏者)

地元・大阪で古楽の振興に寄与することは私の目標の一つで、今回の受賞ではその道のりを一歩ずつ歩めていることが確認でき、大変嬉しく光栄に存じます。



片岡 千次郎さん (歌舞伎俳優)

この度は思いもよらず、栄えある賞を頂戴いたしまして、大変感激いたしております。お師匠様方はじめ諸先輩方のご指導と、スタッフの皆様や仲間の支えがあればこそと、皆様に感謝の気持ちで一杯でございます。



(撮影：堀川高志)

ばぶれるりぐる (主宰：竹田 モモコさん)

このような歴史のある賞をいただけて大変嬉しいです。「奨励賞」の名の通り、今後も良い作品を生み出せるよう、より一層精進してまいります。



「さすらうこえ_さすらうからだ」メンバーズ

出会ひの日々のなかで漏れ出る表現、流れ去るような時間のなかで、ひとところ集い交わしたあの出来事がよかったよといってもらえて嬉しいです。

ASKはみなさまからのご寄付をもとに活動を行っています

ASKが支援した活動の一部をご紹介します

一般助成 ▶ 現代美術

冬木遼太郎 フィリピン人のヴァルガス美術館で個展「Kayuminonai」を開催



冬木遼太郎 個展「Kayuminonai」展示風景
会場：UP Vargas Museum

映像や立体など、独自の感性で社会を鋭くとらえ、自身の「芸術」として発表してきた冬木遼太郎さん。2024年夏、マニラ近郊にあるヴァルガス美術館で個展「Kayuminonai」(かゆみのない)を開催。この美術館は、戦前戦後に活躍した政治家ホルヘ・B・ヴァルガスが創設したもので、彼は戦時中、日本軍に協力したとして東京の巣鴨拘置所に収監されます。冬木さんは、ヴァルガスが収集した館の所蔵品が、その内部からモノとして誘引する緊張、発見、啓示への誘いを「かゆみ」ととらえ、また「かゆみ」は肌や人種を想起させるものでもあるとして、その「意図的な消失」を意識させるような形で、収蔵品と自作を組み合わせた展示を行いました。そうした彼の視点のもとで、戦争に翻弄された二国間の関係や美術館が社会に対して負う意味などを浮かび上がらせました。

一般助成 ▶ 現代美術

堀奏太郎 個展「レッドブラッド・アンド・ブルーソウル」が京都で開催



堀奏太郎 個展
「レッドブラッド・アンド・ブルーソウル」展示風景
会場：alternative space yuge(京都)

スベクタクルなハリウッド映画やサブスクで視聴する海外ドラマなど、私たちは、日々それらが放つ強烈なイメージにさらされています。画家の堀奏太郎さんは、意識の奥深くまで浸透し、私たちを惹きつけて止まないそうした「アメリカン」な視覚と向き合い、絵画を通してその表出を試みます。近年、彼が手掛けるのは、そうした視覚に宿る「男性性」。マッコで、巨大で、ときには都市さえも破壊してしまうロボットを、平面の絵画では物足りないとはかりに、ハリボテの立体絵画として現出させ、それと対峙する自分自身を確認します。2024年の個展で見せた作品は、映画トランスフォーマーに出てきそうなロボットを細部に至るまで丹念に「描い」て立体化させたもの。その立体物ならではの視覚的なインパクトは、その場に在る者を圧倒する力に充ちていました。

一般助成 ▶ 現代演劇

コトリ会議 近未来を描いた現代劇「おかえりなさせませんさい」伊丹公演

2007年に旗揚げされた関西を代表する劇団、コトリ会議。座付き作家・山本正典さんの戯曲の上演を中心に、「一生懸命になりすぎてなんだか変なことになっちゃった人たちの生活をとことかまわず描くこと」(劇団WEBページより)をモットーに活動しています。2024年12月に伊丹で上演した奇妙な題名を持つ作品「おかえりなさせませんさい」は、戦争に明け暮れる未来社会を舞台に、軍の召集を逃れるためツバメと融合した人造人間となるべきか否かの葛藤を描く、SFヒューマンドラマ。合体されるツバメの記憶、人間の尊厳、そして家族への愛が、極限の選択を迫られる中で失われ、また逆に意味を持つ様を描きます。その究極の状況を通して、戦争の悲惨さと無力感を、コミカルな描写とともに浮き彫りにした作品となりました。本作は第3回関西えんげき大賞最優秀作品賞を受賞しました。



コトリ会議「おかえりなさせませんさい」公演風景
会場：伊丹アイホール Photo：河西沙織（菅劇屋）

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金助成 ▶ クラシック音楽

原由莉子ウィーン世紀末シリーズ Vol.8「浄夜～シェーンベルクの肖像」

ウィーン国立音大大学院にてピアノを学び、関西を拠点にオーケストラと協演するなど注目を集めるピアニストの原由莉子さん。ウィーンから帰国した2020年から、ウィーン世紀末の音楽をもっと知ってほしいとシリーズで始めたレクチャーコンサートの8回目が、兵庫県立芸術文化センターで開催されました(2024年12月4日)。今回のテーマは生誕150周年を迎えたシェーンベルク。「話したいことがありすぎて」と時間オーバー気味にシェーンベルクの音楽と人物像について熱く語りながら、その合間に演奏を行うスタイルで進みます。後半はメインピースとなるシェーンベルクの《浄夜》を、ピアノ三重奏にて、若手気鋭のヴァイオリニスト渡辺紗蘭さん、注目のチェリリスト北垣彩さんを交えて演奏し、会場からブラボーの声がかかるほどの喝采を浴びました。



原由莉子ウィーン世紀末シリーズ Vol.8 演奏風景
会場：兵庫県立芸術文化センター小ホール Photo：芦河博

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金 ▶ クラシック音楽

吉田さや佳「クラリネットリサイタル mit innigkeit」の開催

クラリネット奏者・吉田さや佳さんによるリサイタルが、ザ・フェニックスホールで開催されました(2025年1月26日)。13歳からクラリネットをはじめた吉田さんは、音大ではなく佐賀大学経済学部出身。留学をきっかけに音楽が持つ言葉によらない意志の疎通を実感し、プロになる決意を固めたとか。現在は関西を拠点に、ソロ活動のほか、各地の一流オーケストラに客演奏者として招かれるなど幅広く活動しています。プログラムはクラリネットのために書かれた曲を中心に、ピアニストの天野圭子さんとピッタリ息のあった演奏を披露。サイズの違う大小4種類のクラリネットを使い分けながら、普段ソロであまり聞くことのないクラリネットが持つ楽器の魅力を存分に引き出す演奏となり、ほぼ満員となった聴衆を魅了しました。



吉田さや佳「クラリネットリサイタル mit innigkeit」演奏風景
会場：ザ・フェニックスホール

未来の音楽家が、学び・挑戦し・成長できる環境を！



箕面市立文化芸術劇場小ホールでのコンサート風景(2025年3月9日)

関西・大阪21世紀協会は、未来ある若手クラシック演奏家支援のためにトヨタモビリティ新大阪から託された寄付を活用し、一般社団法人Reiseが主催する室内楽セミナー「Reise String Laboratory」の支援を開始した。

Reise String Laboratoryは、大阪の小規模ホール・今福音楽堂(大阪市城東区)が、若手音楽家育成のために立ち上げた室内楽セミナーだ。少人数で演奏する室内楽の魅力は、個々の楽器の音色や個性が際立ち、演奏者が音楽で会話をしているような親密さにある。しかし、Reise代表理事の長尾賢さんは、「少子化やコロナ禍の影響で音楽大学への入学者が減少し、奏者が揃わず室内楽を学ぶ機会が減っている」という。自身も演奏家の長尾さんは、コロナ禍で音楽をあきらめる仲間たちに活動の場を作ろうと2020年に今福音楽堂を設立、2023年、ヴィオラ奏者の牧野葵美さんが発起人となり、二人は大学の枠を超えた室内楽の学びの場Reise String Laboratoryを始動させた。

BBCフィルハーモニック(英)の副首席奏者として活躍した牧野さんは、「留学先で経歴や年齢、生い立ちの違う人たちと室内楽を演奏した経験は、技術だけでなく自身の音楽表現の幅を広げてくれた」と語る。そこで、講師が一方的に指導するのではなく、参加者同士が刺激しあうセミナーにしたいと考え、二人は師匠である小栗まち絵さんに音楽監督を依頼した。小栗さんといえば、室内楽の国際コンクールで数々の賞を獲得し、海外で活躍した後、優れたヴァイオリニストを多く育てた名伯楽。さらに、

パリ国立高等音楽院准教授の梁 美沙さん(ヴァイオリン)、日本フィルハーモニー交響楽団のソロ・チェロ奏者・門脇大樹さんを迎え、講師陣を充実させた。

Reise String Laboratoryのリハーサルは長い。コンサート前には、講師と受講生が寝食を共にする3泊4日の合宿と2日間の公開リハーサルも行う。「じっくりと音楽に向き合う時間を共有することで、遠慮がちだった受講生も考えをぶつけるようになり、音楽の理解が深まり、演奏も格段に進化する」と長尾さん。小栗さんも「音楽をやっていく本質は、一人ひとりの楽譜に対する感性を大事にすること。時間はかかるが、若い時のこうした経験は将来かけがえのないものになる」と目を細める。

今年3月9日に箕面市立文化芸術劇場小ホールで行われたコンサートでは、過去2回の受講生と講師によるアンサンブルが披露され、演奏を終えた彼らの顔には講師と生徒という関係を超えた一人の奏者としての達成感と高揚感が溢れていた。

始まったばかりの「Reise String Laboratory」。名前の通り、この実験室から今後、驚くような化学反応が生まれ、クラシック音楽業界に新たなイノベーションを巻き起こしてくれることだろう。



講師をつとめた左から牧野葵美さん、梁 美沙さん、小栗まち絵さん、門脇大樹さん



一般社団法人Reise 代表理事 長尾 賢さん



山東カントリークラブ(兵庫県朝来市)で行われた音楽合宿の様子

開催レポート

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発信と発掘」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。この趣旨に基づき、各団体開催の催しなどの協力や後援も行っています。

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2024（2024年10月26日／国立民族学博物館）

- ◆主催：公益財団法人 千里文化財団 ◆共催：大阪府、国立民族学博物館
- ◆協力：公益財団法人 関西・大阪21世紀協会、国立大学法人 大阪大学、公益財団法人 大阪日本民芸館、大阪モノレール株式会社、万博記念公園マネジメント・パートナーズ
- ◆後援：公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会、吹田市、NHK大阪放送局

協働・共創の万博をめざして

2025年大阪・関西万博の開催を半年後に控え、前半は3名のパネリストのうち、中島さち子氏と堂目卓生氏が万博の具体的な進捗状況について語り、佐野真由子氏が学術的観点から万博の歴史を振り返りました。後半は吉田憲司氏も加わり、「いのち」をキーワードに、2025年大阪・関西万博は人が主役の万博であることを確認するとともに、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる万博開催の意義について活発な議論が交わされました。本シンポジウムは、1970年大阪万博のレガシーである国立民族学博物館と万博記念公園（大阪府）が協働し、2025年大阪・関西万博の開催年まで毎年開催されており、今年度も開催の予定です。



シンポジウムでのディスカッションの様子

今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」^{ほ え か ご}（2025年1月10日 宗右衛門町～今宮戎神社）

- ◆主催：十日戎宝恵駕振興会 ◆協賛：今宮戎神社、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

新春のミナミを彩る華やかな大行列

今宮戎神社「十日戎」の奉納行事として、大阪府無形民俗文化財に指定されている宝恵駕行列が今年も盛大に行われました。江戸時代に始まったこの行列は、紅白の布や縁起物で飾られた駕に乗り、「ほえかご、ほえかご」の掛け声とともに巡行し、商売繁盛を祈願する伝統行事です。2021年から2023年まで中止となっていましたが、昨年4年ぶりに再開され、今年はさらに戎橋南詰に戎舞台が復活しました。芸妓に扮した山村流日本舞踊家の山村光さんに続いて、NHK連続テレビ小説「おむすび」の松井玲奈さん、松竹座の曾我廼家いろはさんが駕に乗り、道頓堀を練り歩きました。400人を超える大行列が今宮戎神社までの道のりを華やかに彩りました。



ミナミを練り歩く山村光さん一行と見物する人たち

第22回堂島薬師堂節分お水汲み祭り（2025年2月3日／堂島薬師堂・北新地一带）

- ◆主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

早春の北新地で祈りと華やかさが融合

「堂島薬師堂節分お水汲み祭り」は、堂島・北新地に古くから伝わる「節分行事」と、水都大阪にふさわしく水に感謝する「お水汲み」が一体となったお祭りで、大阪キタの早春を彩る風物詩として、多くの人々に親しまれています。奈良薬師寺の僧侶による護摩焚きや「お香水」を用いた祈願が行われ、22回目を迎える今年は、堂島アバンザの特設舞台で新しい北新地イメージソング「フシギニイカンジ」がライブで披露されました。また、恒例の白龍巡業では、鬼や節分お化け（仮装）のほか、5年ぶりに選出された第9代北新地クイーン4名が艶やかな花魁姿で華を添えました。



堂島薬師堂での節分法要

令和6(2024)年 関西元気文化圏賞 贈呈式 (2025年1月27日/リーガロイヤルホテル大阪)

◆主催：関西元気文化圏推進協議会

2024年の大賞は「グラングリーン大阪」

「関西元気文化圏賞」は文化を通じて関西から日本を明るく元気にした人物や団体に贈られる賞です。22回目を迎えた2024年の大賞はグラングリーン大阪です。大阪の玄関口となるうめきた2期区域の先行まちびらきで、地域の経済活性化や国際競争力強化に寄与しています。特別賞には、車いすプロテニス選手の上地結衣さんと西日本唯一のシャチパフォーマンスがある神戸須磨シーワールドが選ばれました。贈呈式は、大阪・関西万博の会場デザインプロデューサー藤本壮介さんから記念講演もいただき盛大に行われました。

各賞の受賞者は次の通り。

大賞：グラングリーン大阪、特別賞：上地結衣(車いすプロテニス選手)、神戸須磨シーワールド、ニューパワー賞：

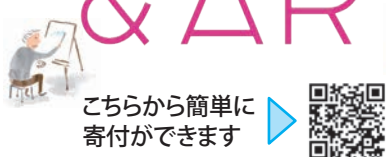
宮島未奈(小説家)、京都国際高等学校 硬式野球部、玉井陸斗(飛込選手)、飯村一輝(フェンシング選手)(敬称略)



2024年度受賞者と主催者



HEART & ART



アーツサポート関西の芸術・文化支援

HEART & ARTは、アーツサポート関西が進める芸術・文化支援のためのご寄付を集める取り組みです。お寄せいただいたご寄付は、アーティストや文化団体支援に充てられます。みなさまからのご寄付をお待ちしています。寄付には税の優遇措置が適用されます。

HEART & ARTは公益財団法人関西・大阪21世紀協会が行うアーツサポート関西の取り組みとして行われています。



詳しくはアーツサポート関西ホームページへ ▶ <https://artssupport-kansai.or.jp/>

関西初!!

「スマホ」でかんたん
少額からできる

ぽちっ と募金



あなたの想いを
「ぽちっ」と届けよう

J-Coin

J-Coin Pay「ぽちっ と募金」で募金の受付を開始!

～少額から簡単に あなたの寄付でアーティストや芸術・文化活動の支援を～

「ぽちっ と募金」とは

J-Coin Pay(店頭での支払い、送金、入出金をスマホで行えるアプリ)を利用して、復興支援や国際協力、医療・福祉、文化・芸術、スポーツ振興などの支援を行う団体に対し、少額から募金できるサービスです。(J-Coin Payについては ▶ <https://j-coin.jp/>)

公益財団法人関西・大阪21世紀協会は、大阪・関西を中心に、文化の振興を通じて都市の活性化に寄与するため、様々な芸術・文化活動にできる限りの支援を行うとともに、様々なイベントの文化プログラムでの結節点機能の役割を果たすことを目的に活動しています。

現在、株式会社みずほ銀行が提供し、全国90以上の金融機関が参画するスマホ送金・決済アプリ「J-Coin Pay」内で実施している「ぽちっ と募金」から公益財団法人関西・大阪21世紀協会に寄付することが可能となっています。

このような取り組みにご賛同いただける方は、この「J-Coin Pay」アプリを通じて、寄付をしていただくことができます。金額は500円からで、「ぽちっ と募金」で寄せられたご寄付は、アーティストへの支援を拡充していくための費用として活用されます。何卒、ご支援賜りますようお願いいたします。

詳しくは関西・大阪21世紀協会ホームページへ
<https://www.osaka21.or.jp>

関西・大阪21世紀協会賛助会員
入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会 費(何口からでも結構です)

- 法人会員 1口につき年会費10万円
- 個人会員 1口につき年会費 1万円

特 典

1. 協会が発行する刊行物の配布
2. 協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3. 賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部(TEL.06-7507-2001)